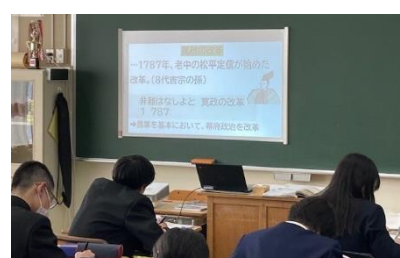


トントントン

1年生の教室に入ると、社会で“田沼意次と松平定信の政治”を学んでいました。

田沼意次といえば、農業を重んじる主義から商工業を重んじる主義への政策変化を行ったと記憶しています。

年貢を増やす政策には限界を感じていたようです。“長崎貿易”海外との貿易に力を入れました。商人には“株仲間”を作ることをすすめ、営業を



独占できるという特権を与える代わりに営業税を納めさせました。現代の株の仕組みとは異なりますが、経済が発展していきました。

3年生の教室に入ってみると、クロームブックを開き、何やらグラフを眺めています。声をかけると、社会で学習した“株”の画面でした。シュミレーションソフトを用いて、仮想で株を購入し運用しているようです。「校長先生聞いてください。ニトリの株を数日前に買ったんです。日曜日、がっちりマンデー!! (TBS) に、ニトリの社長が出演してたんですよ。そうしたら、株価がトントントン拍子に上がって。喜んでいたら今日、暴落じゃないですか。」大口投資家が動いたのでしょう。話題性のある時に購入し株価を吊り上げ、上がったとたんに売却し、利益を得る。株価は刻一刻と変化します。デイトレーダーにとってみれば、その変化をも楽しむゲームのようなものなののでしょうか。素人には損益トントントンがいいところでしょう。彼の購入した株はそんな投資家の影響を受け急カーブで下落しました。

「トントントン」音楽に乗せたトントントン拍子が視聴覚室から聞こえた来ました。中に入ると、生バンドの演奏で1組のダンスの授業です。曲目はこっちのけんとの“はいよろこんで” 大晦日の紅白にも出場しました。『はいよろこんで』『あなたがたのため』一度聞けば脳裏に焼き付く歌詞とメロディーです。歌詞の途中にモールス信号がはいるのですが、その「トントントン」の振り付けをみんなで考えました。こぶしを重ね「トントントン」三度ぶつけながら、横にスライドしています。一曲通して観ると、上下左右に激しく変化する振り付け。ニトリの株価のよう、とは言いませんが。

2年C組の国語は「走れメロス」です。罪のない村民を容赦なく処刑する王をメロスは成敗しようと企てますが失敗します。王はメロスに処刑を



言い渡しました。親友を人質として置き、3日間の猶予を得ることになったメロスは、村で妹の結婚式に向かいます。私が今まで見てきた授業は、メロスに対する試練と心情を中心に進めていました。しかし、この授業では王様ディオニスの心情についても同時に触れていくのです。「王は、誰のことも信用せず暴君となった。実はメロスを含む家来たちのせいだった。」「ところが、メロスの言動で揺れる自分(王)がいた」気になる言葉が続きます。城と村の往復、メロスの肉体や精神はトントントン拍子といかなかったことは 明朗ッス。そのメロスの姿や言葉、行動が、王の心情を刻々と変化させていった。担当教員が全てを明らかにせず含みをもたせながら解説するため、大変興味の惹かれる授業でした。



メロスは自分の身代わりとなった親友のために走りました。その結果、暴君であった王に「人の信実」を認めさせ、心を変化させました。群衆はその光景に歓喜しました。

メロスは、親友一人のために走ったものではありません。『あなたがたのため』に走ったのです。